ごあいさつ

取締役頭取　斎藤　眞一

皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、ディスクロージャー誌「115期営業の中間ご報告（2022年4月1日～2022年9月30日）」を作成いたしましたので、ご高覧いただきたいと存じます。

本誌では、中間決算の概要や業務内容、地域貢献に関する取組み状況などをまとめており、当行について一層のご理解を深めていただければ幸いです。

日本経済を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、行動制限の緩和などウィズコロナの新たな段階への移行が続く中で、個人消費を中心に景気は持ち直しの動きが見られました。しかしながら、緊迫した国際情勢並びに急激な円安進行等に伴う資源価格上昇や物価の高騰などの影響により、今後の経済の見通しは不透明な状況にあります。

鹿児島県経済におきましても、観光・宿泊・飲食関連は、行動制限の緩和や政府の観光支援策等により持ち直しの動きが見られるものの、基幹産業である農業においては、飼料・肥料価格の高騰による影響が今後拡大する懸念もあるなど、全体としては厳しい状況が続くものと考えられます。

このような環境のもと、当行においては、2020年度からスタートした第五次経営強化計画に掲げた各種施策に取組み、新型コロナウイルス感染症の影響等により、一段と厳しい状況にあるお客さまの支援に注力してまいりました。

2022年9月には、公的優先株式であるA種優先株式150億円の全部を取得し、期日より1年半前倒しにて公的資金を完済しました。2009年3月の公的資金受入以降、金融仲介機能の一層の発揮や、販路開拓支援業務「WIN-WINネット業務」を中心に、収益性及び健全性の向上に努めてまいりました。これまでの株主の皆さま及びお客さまのご理解と暖かいご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。

引き続き『地域に責任を持つ“真の金融機関”』として「南日本銀行グループSDGs宣言」に掲げる地域の課題解決への取組みを進め、持続可能な社会の実現を目指してまいりますので、今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2023年1月
取締役頭取　斎藤 眞一

CONTENTS

●経営理念・経営強化計画 …… 1
●当行の考え方 …… 2～4
●中小企業の経営の改善及び
　地域の活性化のための取組みの状況 …… 5～6
●2022年9月期業績ハイライト（単体） …… 7～9
●地域とお客さまの発展のために …… 10～14
●組織・ネットワーク …… 15～18
●資料編 …… 19～56

シンボル・マーク

「南日本銀行」の頭文字「M」をデザイン化したものです。楕円の1つは南日本銀行であり、もう1つは地域を表現しています。

2つの楕円が緊密な結合をし、地域と銀行、お客様と銀行、人と人との密接な関わり、信頼関係、また、銀行内のしっかりした団結をも意味しています。

「M」は変化し、限りなく拡大するイメージを想起させ、互いに寄り添い、シンプルな形状の中にも、銀行の持つ力強さ、未来性が表現されています。

本冊子は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料（業務及び財産の状況に関する説明書類）です。本資料に掲載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しております。

当行の概要

本店所在地	鹿児島市山下町1番1号
創業	1913（大正2）年9月4日
資本金	133億51百万円
店舗数	本支店64カ店 （本支店61、出張所3） ※ブランチ・イン・ブランチ（店舗内店舗）形式での店舗統合による実質店舗数59ヵ店
従業員数	877人 （嘱託・パート・出向者含む）
主要勘定〈単体〉	総資産　8,534億円 預金残高　7,807億円 貸出残高　5,807億円 （2022年9月末現在）